

問1 大都市の消費者に新鮮な野菜を届けるため、都市の近隣で行われる農業を何という？

1. 近郊農業 2. 促成栽培 3. 企業的農業 4. 抑制栽培

問2 貿易摩擦を解消するために、日本企業が消費地の近くに工場を建設して生産を行うことを何という？

1. 輸出拡大 2. 輸入制限 3. 委託生産 4. 現地生産

問3 太陽光や風力のように、自然界で繰り返し利用でき、発電時に二酸化炭素を排出しないものを何という？

1. 化石燃料 2. 再生可能エネルギー 3. 原子力発電 4. 火力発電

問4 促成栽培が盛んで、京浜や京阪神といった大都市へ野菜を出荷している四国の県はどこ？

1. 群馬県 2. 長野県 3. 北海道 4. 高知県

問5 太平洋ベルトにおいて、東京都と神奈川県にまたがる、日本屈指の工業地域を何という？

1. 中京 2. 阪神 3. 京浜 4. 北九州

問6 冬の寒さを防ぎ、気温をコントロールして促成栽培を行うために積極的に利用される設備を何という？

1. コンバイン 2. トラクター 3. ビニールハウス 4. スプリンクラー

問7 生産された作物を大都市などの消費地へ流通させるために経由する、卸売の拠点となる場所を何という？

1. 工場 2. 農協 3. 倉庫 4. 市場

問8 長野県に位置し、夏に涼しい気候を生かしたレタスなどの生産が盛んな高原地帯はどこ？

1. 濃尾平野 2. 宮崎平野 3. 野辺山高原 4. 高知平野

問9 温暖な気候を利用して、通常よりも早く野菜を収穫する栽培方法に最も適している地域はどこ？

1. 太平洋側 2. 中央高地 3. 瀬戸内側 4. 日本海側

問10 稚魚や稚貝を人の手で育ててから海に放流し、成長してから捕獲する手法を何という？

1. 栽培漁業 2. 養殖業 3. 沖合漁業 4. 遠洋漁業

問11 日本の海面養殖業で盛んに生産されており、食卓でも身近な海藻類を何という？

1. カキ 2. のり 3. プリ 4. マダイ

問12 1980年代に、日本から自動車や半導体などが大量に輸出されたことで生じた国際的な不釣り合いを何という？

1. 輸入超過 2. 貿易不均衡 3. 輸出超過 4. 関税障壁

問13 福岡県に建設され、石炭資源を利用して日本の重化学工業の発展の起点となった製鉄所を何という？

1. 八幡製鉄所 2. 川崎製鉄所 3. 釜石製鉄所 4. 富士製鉄所

問14 河川の勾配や水量を利用し、ダムなどで水をためてタービンを回す発電方法を何という？

1. 風力発電 2. 地熱発電 3. 水力発電 4. 太陽光発電

問15 京浜工業地帯において、東京都と接しており、横浜港などの重要な港湾を持つ県はどこ？

1. 愛知県 2. 兵庫県 3. 福岡県 4. 神奈川県

問16 漁獲量を安定させるため、海産資源を管理しながら積極的に増やす仕組みを何という？

1. 遠洋漁業 2. 沿岸漁業 3. 資源管理型漁業 4. 沖合漁業

答え合わせ・解説

問1	答え 1 近郊農業	近郊農業は、大都市に近い平野部で行われます。消費地に近いため、収穫したその日に店に並べることが可能であり、鮮度が求められるほうれん草や小松菜などの生産が盛んです。
問2	答え 4 現地生産	「現地生産」は、製品を売る国の中で工場を運営する方式です。これにより、相手国の雇用を増やし、物流コストを抑えることができます。特に自動車産業では、日本メーカーがアメリカや欧州に大規模な工場を次々と建設しました。
問3	答え 2 再生可能エネルギー	「再生可能エネルギー」は、太陽光、風力、地熱、水力、バイオマスなどが含まれます。これらは発電時に温室効果ガスをほとんど出さないため、地球環境に優しいエネルギーとして期待されています。
問4	答え 4 高知県	高知県は太平洋に面しており、冬でも日照時間が長く非常に温暖です。この気候を活かし、ビニールハウスを用いた促成栽培によって、冬から春にかけてナスやピーマンを京浜や京阪神などの大消費地へ大量に出荷しています。
問5	答え 3 京浜	京浜工業地帯は、重化学工業を中心としてスタートしました。東京港や横浜港などの大きな港を抱え、原料の輸入から完成品の出荷までスムーズに行える利点があります。
問6	答え 3 ビニールハウス	ビニールハウスは、骨組みにビニールやプラスチックのシートを張り、内部の温度や湿度を管理する施設です。太陽光を透過させて内部を暖め、外気の影響を抑えることで、野菜の成長を早めることができます。
問7	答え 4 市場	市場は、生産者が育てた野菜や果物を全国から集め、仲卸業者を通じてスーパーマーケットや小売店へ流通させる拠点です。適切な価格形成を行い、安定した供給を保证する役割を担っています。
問8	答え 3 野辺山高原	野辺山高原は長野県南牧村を中心に広がる高原地帯で、夏場の冷涼な気候を最大限に活用した抑制栽培が行われています。特にレタスの生産量は全国的にも非常に多く、大規模な農業経営が展開されています。
問9	答え 1 太平洋側	促成栽培とは、気温の高い地域や施設を利用して、野菜の収穫時期を通常より早める技術です。冬に収穫できることで市場価格が高くなりやすい時期に出荷できるため、農家の収益向上にもつながります。
問10	答え 1 栽培漁業	栽培漁業は、人工孵化させた稚魚や稚貝を、ある程度大きくなるまで飼育し、その後海に放流する手法です。自然界で成長した個体を捕獲するため、天然に近い状態で水揚げできるのが特徴です。【概要】マダイやヒラメ、クルマエビなどで盛んに行われており、日本の水産資源の維持と安定供給に大きく貢献しています。
問11	答え 2 のり	のり養殖は、寒冷な時期に潮の満ち引きを利用して網の上で育てます。成長したのりは収穫後に乾燥され、板のりとして全国に出荷されます。
問12	答え 2 貿易不均衡	しかし、日本からの輸出が急増しすぎることによって、輸入相手国との間で「貿易不均衡」が生じました。特にアメリカとの間では激しい摩擦（貿易摩擦）となり、日本の製品に対する関税の引き上げや、輸出の自主規制などが求められる事態となりました。
問13	答え 1 八幡製鉄所	八幡製鉄所は、1901年に操業を開始した官営製鉄所です。ここでの成功により、日本は鉄鋼製品を自給できるようになり、重化学工業の土台が築かれました。
問14	答え 3 水力発電	「水力発電」は、ダムや落差を利用して水の勢いでタービンを回します。二酸化炭素を排出せず、需要に応じて即座に出力を調整できるため、電力の安定供給において重要な役割を果たしています。古くからあるエネルギー源ですが、技術の進化によりさらなる効率化が進んでいます。
問15	答え 4 神奈川県	神奈川県の沿岸部には、京浜工業地帯の主力工場や物流倉庫、研究所が数多く存在します。特に横浜港は、古くから国際貿易港として日本と世界を結ぶ役割を果たしてきました。
問16	答え 3 資源管理型漁業	資源管理型漁業は、漁獲量に制限を設けたり、稚魚を放流したりして、資源を枯渇させないように管理する手法です。特に栽培漁業と密接に関連しており、自然の海を上手に活用する技術が重要視されています。